

地域の資料を読んで歴史を知る

地域には多くの古文書が残されています。この講座は、古文書を読みながら、わかりやすく歴史を学んでいきます。郷土に残された古文書から「歴史」の扉をひらいてみませんか。

古文書にはじめて接する方、郷土の歴史を「史料」に基づいて解き明かしたい方におすすめです。今回は、富士山の噴火、霧社事件（台湾で起こった最大規模の抗日運動）、秦野と縁のある大名である米倉氏と堀山下村、戸川砥石・相模漆の生産などに関する秦野地域の古文書を読解しながら、地域の歴史像に迫ります。

日時：8月21日(月)～24日(木) の 13:30～16:00(連続講座 全4回)

場所：県立秦野曾屋高等学校(秦野駅よりバス10分または徒歩20分 自動車乗り入れ要相談)

講師：地歴公民科 関口康弘・桐生海正

対象：中学生以上

定員：40名(申込み先着順)

参加費：1,500円(資料代を含みます)

申込方法：はがきにあなたの①お名前②住所③電話番号④年齢をお書きになり、下記住所へ送りください。または、FAXで送信してください。

申込締切：8月2日(水)消印有効

申込み・問合せ先：住所 〒257-0031 秦野市曾屋 3613の1

電話 0463-82-4000

FAX 0463-83-5342

担当：地歴公民科 関口康弘・桐生海正



居士

古文書とは、文字で記された過去の記録のことです。これらは、私たちの祖先が生活していた当時の様子を伝える貴重な資料です。今回は、秦野地域に残された古文書の中から、富士山の噴火、霧社事件、米倉氏と堀山下村、戸川砥石・相模漆の生産などに関する資料を選び、その内容を読み解いていきます。これを通して、地域の歴史をより深く知り、郷土への愛着を深めたいと思います。